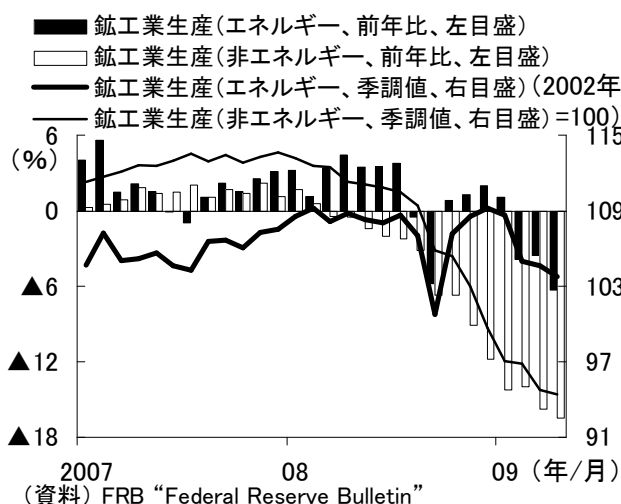


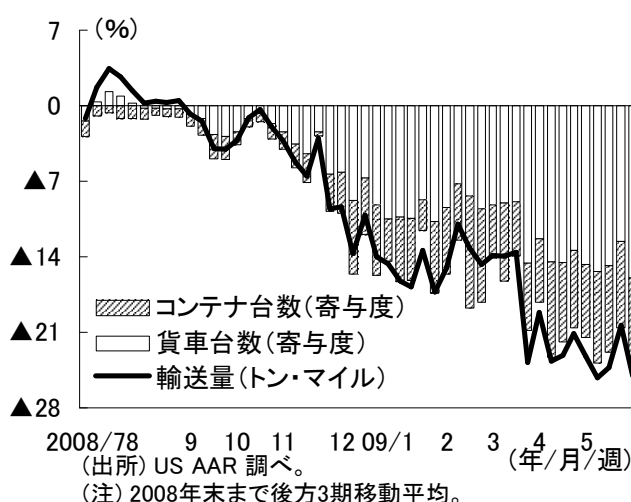
深刻化する米国経済 ～ 持ち直しの兆し定着は期待薄 ～

- (1) 米国経済が最悪期を脱し持ち直しの兆し。5月の非農業部門雇用者数は前月差34.5万人減と従来比、大幅に減勢が縮小。一方、株価も3月以降、上昇。今後、8千億ドルの景気対策の効果が発現へ。こうしたなか、米国経済の先行きについて楽観的な見方が次第に台頭。
- (2) しかし、実体経済に即してみれば持ち直しの判断は時期尚早。まず鉱工業生産についてみると、発電や熱供給などのエネルギー分野、自動車や半導体などの非エネルギー分野とも月を追って減勢が拡大(図表1)。
- (3) 一方、物流について、最新動向がフォローできる鉄道貨物取扱高をみると、昨年末以降の趨勢的な減勢拡大傾向が改善に向かう兆候は依然看取されず(図表2)。むしろ株価が上昇傾向に転じた3月半ば以降、減勢が一段と加速。
- (4) 企業倒産・個人破産件数も増勢が持続(図表3)。5月の広義失業率は既往最悪の16.4%と2割弱に上昇(図表4)。6人に1人が広義失業者。そうしたなか米銀貸倒償却率は、昨年入り後急速に上昇し、本年1～3月期2.04%で既往最悪(従来ピークは91年4～6月期1.69%)。
- (5) 以上を要すれば、下押し圧力は依然拡大中。米国経済の早期持ち直しは期待薄。

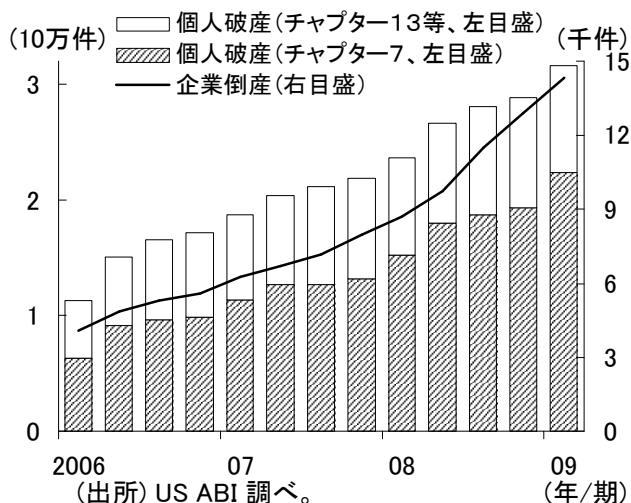
(図表1) 米国鉱工業生産の推移



(図表2) 米国鉄道貨物取扱高の推移(前年比)



(図表3) 米国個人破産と企業倒産件数の推移



(図表4) 米国失業率の推移(季調値)

